

# H31学力向上アクションプラン(姫島村)

## 目標及び指標

### 【目標】

#### ①児童・生徒の学力に関する目標

「かっこタイム」「かっこチャレンジタイム」(小)「やはずタイム」「週末課題」(中)などの補充的な学習を計画的に継続して実施することにより、基礎・基本の定着を図る。

「新大分スタンダード」に基づく授業実践を徹底するとともに、各教科の見方・考え方を働かせて展開する授業づくりを行うことにより、主体的・対話的で深い学びを意識した「聞く」「話す」「読む」「書く」力の育成を図る。

#### ②学校等が抱える組織的・構造的課題に関する目標

校内研修を活用し、「めあて」「課題」「まとめ」「振り返り」において、学習の見通しや意欲を持たせたり、成果を実感させたり、次の学習につながる自信や意欲を高めたりするよう、その質の向上を図る。

「家庭学習の手引」をもとに、家庭との連携を推進し、家庭学習習慣の定着を図る。

基礎・基本の定着を目指した、「かっこ塾(小4～小6)」や「水曜日塾(中2)・土曜日塾(中3)への参加を呼びかけ、学校・家庭・地域(村教委)が連携した学力向上の取組を継続して計画的に推進する。

## 達成指標

## 取組指標

村独自の総合学力調査において、各教科における目標値を上回る児童生徒の割合を75%以上にする。	【小学校】 過去の調査の分析結果や単元末テストの分析結果から、各学年の課題を見出し、復習並びに弱点補強を行う。年間を通しては、朝の「かっこタイム」や課後の「チャレンジタイム」を使って国語・算数の補充学習を毎週4回年間を通じて実施する(実施率100%)と共に、読解力向上を図るための問題集を計画的に取り組み(100%)。また、意図的かつ計画的に補充問題を家庭学習の課題として、取り組ませたり、放課後かっこ塾(11月～)などで取り扱ったりすることで、更なる理解・定着を図る。
「家庭学習の手引」に基づいた家庭学習の取組の達成率を90%以上にする。	【中学校】 全国学力・学習状況調査、県学力定着調査の実施後、校内での独自分析を行い顕在化した課題解決の取組を、「やはずタイム」(実施計画に対しての実施率100%目標)「週末課題」(実施率100%目標)「授業」を活用して行う。また、家庭学習ノート(毎日実施)を活用して学習内容の定着を図るとともに、長期休業を利用して補充学習を実施する。「水曜日塾(中2)・土曜日塾(中3)」における補充学習を、参加率100%を目標に計画的に実施する。また、小学校段階からの学力向上を目指し、数学教員・英語教員が専門的なスキルを生かし、小学校へ赴き(乗り入れ授業)、TT指導を展開する(実施率90%以上)。 【小学校】【中学校】 学校評価における生徒・保護者アンケートを学期ごとに実施し、取組状況の把握を行うとともに、PTA・HP・学校だより等を通して、保護者への啓発に取り組む。PTAなどを活用し、「学習の手引き」の保護者への周知徹底を図る。

## 行動計画

### ①「新大分スタンダード」に基づく組織的・計画的な授業構想と実施による質の向上について

#### ○1時間完結型授業

【小学校】校内研修と連動し、主体的な学びを促すために「課題の質」「話し合い」「振り返り」の充実を図る。

【中学校】校内研修と連動し、主体的な学びを促すために「めあて」「課題」「まとめ」「振り返り」の設定の充実を図る。

#### ○板書の構造化

思考を整理し思考の過程を振り返るために、児童生徒の考えが黒板に類型化されるようにする。

#### ○習熟の程度に応じた指導

【小学校】かっこタイム(朝ドリル)やかっこチャレンジ(補充学習)において、複数体制での指導を定着させ、個別指導の充実を図ると共に、PCソフト(e-ライブラリシステム)の導入により、進んで弱点補強を図る。

【中学校】習熟度別少人数指導教員(英語)・学力向上支援教員(数学)を活用し、習熟度別少人数指導を実施する。各授業の評価規準をもとに見取りを行い、補充学習等を通してきめ細かな指導を実践することにより、低学力層の底上げを図る。

#### ○生徒指導の3機能を意識した問題解決的な展開

主体的・対話的で深い学びを実現し、目指す資質・能力の育成のために、「自己決定の場を与える」「自己存在感を与える」「共感的人間関係を育む」を意識した授業づくり、各教科の見方・考え方を働かせた問題解決的な展開の授業づくりを実践する。

### ②「中学校学力向上対策3つの提言」の3つの項目(6つの視点)の実施に関して

#### 1)学校の組織的な授業改善による「新大分スタンダード」の徹底

習熟度別少人数指導教員(英語)・学力向上支援教員(数学)の活用した習熟度別少人数授業の実施

#### 2)学校規模に応じた教科指導力向上の仕組みの構築

くにさき地区教科部会の組織をあげた取組やネットワークを活用した授業改善

各種学力調査の結果分析をもとに、地区教科部会ごとにその専門性を活かしたフォローアップシートの作成

#### 3)「生徒とともに創る授業」の推進

生徒による授業評価を実施し、授業改善に反映する。

学習目標を設定し、学期ごとの生徒による振り返りを行い、取組の改善につなげる。

### ③小学校教科担任制の推進に関して

専門性を生かした授業展開とより深い指導により学力向上を図る。

複数の教員による児童の多面的理解を図る。

中1ギャップを緩和し、中学校への円滑接続を図る。

### ④新学習指導要領の実施等に関して

#### ①小学校外国語教育への対応

全学年対象に外国語科を設け、H28から実施している。年間授業時数は、1年(34h)、2～4年(35h)、5・6年(55h)となっている。ALT(国東高校から月1～2回)、や中学校英語教諭(5・6年のみ週1時間)との連携を図りながら、会話力・コミュニケーション能力の育成を図る。

#### ②学校の教育目標の明確化と総合的な学習の時間との関連、カリキュラム・マネジメント

学校教育目標の見直しを行い、育成を目指す資質・能力を明確にし、その資質・能力に基づいた「ふるさと科」の教育課程の作成を行う。また、学校教育目標のもと、重点目標・重点的取組の組み合わせを行い、9年間を見通した小中連携の取組を推進する。

#### ③「ふるさと科」における、地域材(人・もの・こと)の再発掘及び教材化、並びに児童生徒の郷土愛の醸成。

#### ④「ふるさと科」におけるジオパーク、ジオミュージアムの系統的な取組の推進。